

KIDS SMILE LABO JOURNAL

January

日常に散りばめられた、
子どもたちの表現

KIDS SMILE LABO で開催されている「LIFE is ART」という、子どもの写真とアートの作品展。今年は数年ぶりに園内の開催となり、実に温かみのある一日となりました。会場を彩るのは、この一年間の中で子どもたちが表現してきた、さまざまなモノやコトです。

当園で大切にしているのは、上手い・下手という評価ではなく、表現に至るまでの過程や、その子がもつ世界そのもの。それらは、まさに日常の瞬間に散りばめられています。一つひとつの作品がもつストーリーを、楽しそうに語る保育者の姿を見ていると、子どもの表現を受け止める大人の存在がいかに大切か、改めて気付かされます。それは、個々がもつその子らしさの芽や表現を、摘み取ってしまわないために必要不可欠な存在なのだと感じます。

展示されていた幼児クラスの作品の中に、「もともとサッカーボール」というタイトルが付けられたものがありました。タイトルを知らずに見ると、「これは何を作ったのだろう?」と感じる作品です。けれど、もちろん「何か」でなくてもいいのです。思うように手が動いた結果だったり、心地よさを感じ、満足するまでやり切った結果だったり。その形に至るまでの過程こそが、とても面白く、豊かで、何度も「なるほどね」と頷かれてきました。

一見すると「なんだろう?」と感じる表現の中には、目に見えている以上のストーリーがたくさん詰め込まれています。そのことを、ぜひこの機会に知っていただけたら嬉しいです。日頃から大切にしている表現という営み。それを凝縮した行事が「LIFE is ART」です。子どもたちは本当に無限の可能性をもっていて、その表現の豊かさを失うことなく、大きくなつていってほしいと願わざにはいられません。

（もりもり）の愛称で親しまれている、KIDS SMILE LABO の園長。5歳と2歳、二児の父でもあり、保育と子育てに日々真摯に向き合っている。趣味は写真撮影で、愛用のカメラはNikon Zf。彼の生み出す、優しくて愛で溢れる世界はnoteにて随時更新！子育てや保育への想いも語っています。

保育園 KIDS SMILE LABO 園長 森 誠

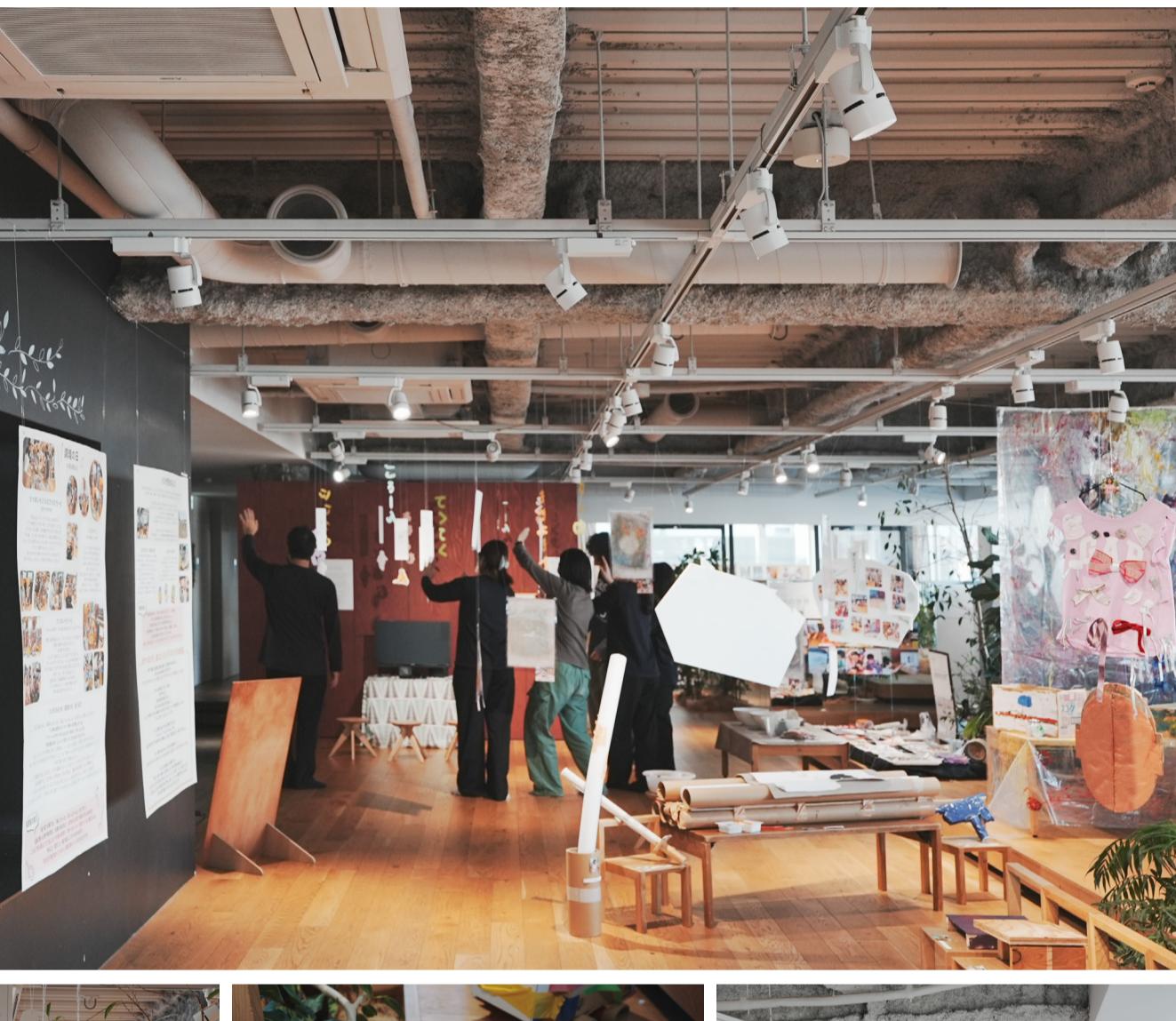


photo by Takahiro Aoki / HIBINOSEKKEI



01

LIFE is ART を振り返って

園内の開催は3年ぶりとなりました。
今年も素敵に彩られましたよ。

02

わらべうたから始まる
友だちの輪

今年度から始まったわらべうたの時間
先生の紹介も掲載しています！

03

乳児クラストピック

1月に入り、より友だちとの時間が
深まっている様子です。

“キッズスマイルラボジャーナル”

KIDS SMILE LABO が発行するフリーペーパー。
普段 SNS でしか見られない保育園の子どもたち
の様子や、子育てに関する情報等、最新情報を
お届けします。

kidssmilelabo.com



@kidssmilelabo



@kidssmilelabo



YouTube



KIDS SMILE LABO



@KIDS_SMILE_LABO



QR

Over the past month, each class has been bustling with activity.
Our homeroom teachers have carefully crafted these class reports with
great affection.
We invite you to enjoy reading about their journey.
This is the page for the classes of children aged 3 to 5.

Minamo Ozora Daichi

わらべうたから広がる育ちの輪

今年度5月から、新しく取り組み始めた「わらべうた」。
月に一度、外部講師の方をお招きし、子どもたちと一緒にわらべうたに親しむ時間を重ねています。
講師の方が用意される道具に興味津々の子どもたち。わらべうたの時間になると、講師の声や歌声に耳を澄まし、その世界へと引き込まれていきます。
聞きなれない歌であっても、繰り返し歌う中で自然と覚え、日常の遊びの中でも口ずさむ姿が見られるようになりました。
わらべうたを通して、子どもたちは遊びの中で多くのことを経験しています。
歌う中で声の大きさやリズムを感じ取り、じゃんけんでは順番や勝ち負けを知ります。仲間と手をつないだり、動きを合わせたりすることで、自然とふれあいや関わりが生まれます。また、縄や体を使った遊びの中では、バランスの取り方や体の動かし方、相手や場面に応じた力加減も身につけていきます。回数を数えながら繰り返し遊ぶことで、「数」への意識も育ち、楽しみながら学びへとつながっています。
その中の一つとして、子どもたちが特に楽しんでいるのが長縄です。初めはなかなか跳ぶことができませんでしたが、わらべうたに合わせてロープを渡ったり、くぐったり、ジャンプしたりと段階を踏んで挑戦してきました。失敗しても「もう一回やってみる」と何度も経験を重ね、今では300回を超えて跳べる子もいます。積み重ねることの大切さや、自分でできた喜びを味わう姿が見られています。
わらべうたの時間は、歌や遊びを通して心と体、そして友だちとのつながりを育む大切なひとときです。昔から伝わる遊びの中には、今の子どもたちの育ちにつながる多くの要素が詰まっています。
これからも、わらべうたの時間が日々の遊びや生活へとつながっていくよう、大切にしていきたいと思います。

text by Satoru Horimoto

△△ 乳児さんもわらべうたを楽しんでいますよ △△



Instructor Introduction

二階堂 恵子 先生 / けいたん

1975年 国立音楽大学教育音楽学科卒業
日本コダーイ協会会員



1976年ハンガリーの作曲家コダーイ・ゾルダーンが考案したコダーイ・メソッドに出会い、自國のわらべ歌から始める音楽教育に興味を持ち研究会員となる。「今を生きる子ども達の音楽教育に何が必要か」「どうアプローチしていけば良いのか」を学ぶため、毎年夏に開催される日本コダーイ協会音楽セミナー全国大会に参加している。
音楽が特別なものでなく誰もが楽しめる物になるよう、歌を楽しく歌う子どもがもっと増えるよう願っている。
現在は幼稚園・保育園の園児・教諭にわらべ歌遊びの指導を行う。又、厚木わらべ歌研究会でわらべ歌遊びに興味を持つ教育関係者に向けて研修会を開催している。

February

Nobana



友だちと育むイメージと心

寒さに負けず戸外で元気いっぱいに遊ぶのはなさん。子どもたちの「イメージする力」がぐんぐん育つてることに驚かされる場面がたくさんあります。しつぽ取りゲームでは、以前は「取られないように逃げる」と夢中だった子どもたち。「これはチーターのしつぽ!だから速いんだよ」「ライオンのしつぽ!」今では自分のしつぽに物語をつけて楽しむ姿が見られます。保育者がしつぽをつけると「タ」になつて逃げてほしい」とリクエスト。ニヨロニヨロ走り出すと、「じゃあカニ」になると「キョキョキ手を動かしながら追いかけてくるなど、遊びはどんどん広がっていきます。

ある時には、ミミズのような木の棒を拾つてLABOに連れて帰ると、友達と一緒にお家を作つたり、家族を考えたり、「飯を用意したりと、大切にお世話をしていました。子どもたちの豊か

な発想力は、見ているこちらまでワクワクさせてくれます。友達と一緒に世界を広げる楽しさがある一方で、時にはぶつかることもあります。保育者としつぽ取りゲームでは、以前は「取られないように逃げる」と夢中だった子どもたち。「これはチーターのしつぽ!だから速いんだよ」「ライオンのしつぽ!」今では自分のしつぽに物語をつけて楽しむ姿が見られます。保育者がしつぽをつけると「タ」になつて逃げてほしい」とリクエスト。ニヨロニヨロ走り出すと、「じゃあカニ」にならない?「おんなじの持つてきてあげるよ」と自然に声をかけたりする姿も増えてきました。相手の気持ちに気づく力や、自分たちで考へて行動する力が育っているのだ感じます。これからも子どもたちの「たのしい」があふれる時間を大切にしていきたいです。

Photo by Tomoko Yamamoto



Komorebi

友だちと一緒に広がる世界

年末年始の休みが明け、話す言葉が増えたり、歩くスピードが速くなったり、こもれびさん一人ひとりの成長をより強く感じるようになりました。これまで保育者と一緒に遊んだり、一人でじっくり遊ぶ姿が多く見られていましたが、最近は友だちとの関わりが少しずつ増えてきています。

ぬいぐるみを持つて始めた友だちの姿を見て真似をし、ぬいぐるみを抱えながら二人並んで座つて足をジタバタさせてみたり、戸外では友だちの後を追いかけながら「キャー」と声をあげて走るなど、一緒に遊ぶ楽しさを味わっていきます。

面白いことを見つけると「一緒にやるよ」と言わんばかりに顔を覗き込む姿も見られ、時には大人が思わず困ってしまうようないたずらと一緒に楽しむ姿もあります。

Photo by Mami Miyazaki

